西東京市市民協働推進センター

令和４年度第４回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和４年 10 月 18 日(火)午後７時 00 分～８時 00 分
■開催場所：オンライン開催（Zoom）
■出席委員：佐藤委員、柴委員、柳委員、久松委員、樋口委員、森谷委員、山本委員　<以上７名>
■事 務 局：小松センター長、鈴木副センター長、小口福祉活動推進課長、中澤地域福祉推進係長

1.報　告　事　項

1．事業報告について

事務局より、7-9 月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談について説明があった。

委　員：新規登録団体の西東京「夢みる小学校」実行委員会は活動内容として「夢みる小学校」という映画の上映だけなのか。

事務局：「夢みる小学校」という映画の上映会をいろいろな場所で開催していく活動だ。

委員長：見た。なんでも子どもに考えさせて失敗させて学ばせるという内容だった。先生もいるが大人は口を出さない。通知表もない。全国に５校くらいあり、校長先生が毎日移動して学校を回る。非常にユニークな学校がテーマの映画である。

委　員：社会教育委員会の提言内容の詳細と担当を決めたということだが、差しさわりの無いところで、どのような内容で、どのように担当を決めたのか知りたい。

事務局：西東京市教育委員会に対して提言をしている。今回の提言は人材育成となった。社会教育を進め、地域を作っていくためには人材育成が大切であるとテーマが決まった。人材育成のどういう所が大切で、どういう部分を育成として掲げるのかを話し合っている。テーマは決まったが章立てを作り、それを誰が担当するかという事で、話し合いを進めている。

2．10 月以降の事業について

事務局より、10 月以降の実施事業ににについて説明があった。

委員長：こそだてフェスタにおいてゆめこらぼのブースはどのような状況であったか知りたい。

事務局：こそだてフェスタにはトータルで 450 名程の参加があった。ゆめこらぼのブースでは子育て関係、子育てしている親御さんへの支援のチラシを置いた。市民相談までにならなかったが団体紹介冊子を手に取っていく方もいた。

委員長：ゆめこらぼのブースの中央に二酸化炭素濃度計を置いたところ数値が上がると、換気をするなどの対応ができるため、CO2 計測器はイベントの時には三密回避の指標になると思った。

委　員：NPO 市民フェスティバルについてだが、現時点で昨年とは違いが出てきている等の特徴はあるのか。

事務局：今年度は運営委員の方やまた公募で初めて委員になられた方もいる。企画などは実行委員の方から出ている。新しい企画としてまちめぐりとして普段なかなか広報できない市内の活動団体へ取材するなどの動画を撮って流す予定だ。撮影や動画の編集も実行委員から協力したいと積極的な声も上がり、昨年までとは違うと感じている。

委　員：まちめぐりというのは取材の風景なども動画でみられるのか。

事務局：そうだ。活動場所までの道のりや建物も撮影し市内を回る動画を作る予定だ。
委　員：良い企画なので、楽しみにしている。

3．第三者評価について
事務局より、第三者評価（評価シート）について説明があった。
委員長：第三者評価は 12 のセンターの運営については表現的な事で変更になったことで、C から B になった事は理解した。職員の士気が下がらないと良い。

2．審　議　事　項

1．前回の会議録について
委員長：意見が無ければ確定稿とする。

2．上半期事業報告について
事務局より、令和４年度上半期西東京市市民協働推進センター運営事業報告（案）について説明があった。
委　員：2.情報収集・提供事業の取り組みについて、年度当初の目標値が、結果の数字が半分なのはなぜか。
事務局：ゆめこらぼ通信が一年間に４回発行される。上半期の報告のため２回としてある。
委員長：1.広報・PR 事業の取り組みがなぜ１番目なのか。重点事業だとは思うが順番はこれで良いのか。
事務局：ゆめこらぼでも不思議に思っていた。順番については市も疑問に思っているが、社会福祉協議会のフォームなのでわからないとのことであった。
委　員：5.地域連携促進事業の取り組みについてだが、自分の所属しているボランティア団体が小学校からまちなか先生ということで依頼が増加している。できる範囲で協力しているが、市のほうからも要請があるのか。
事務局：西東京市の施策の中にある動きで、昨年から地域学校協働活動を進めていこうという動きはあったが、今年度は回数を増やすなどさらに強化している。まちなか先生ということで、学校の授業に入ってもらうとか公民館や図書館からも西東京市の小中学校の授業の中に入ってもらうなど西東京市も実施予定回数等をプレスリリースされている。数年前から学校を核とした地域と学校をつないでいくという動きが国の施策であるためだ。池澤市長が所信表明の中で子どもを真ん中に置いたまちづくりということで、依頼が増えているのだと思う。
委員長：全体を通して意見はないか。
委　員：第三者評価の件だが、センターの運営維持に関してとても気になっている。第三者評価の評価内容をマイルドにしたとの説明は良いが、この記載を毎回、毎回書くことで、現在の実態と市との契約がずれていることを解消するきっかけにしたら良いと思う。今の人件費の予算では社協は約束した通りの人数の体制は作れない。なので、２名体制の指示は受けたくない。それでもやってと言うのであればそれだけの人が働けるだけの人件費が必要である。委託契約の段階で明確にしていく必要がある。予算が足りず人の配置ができないために全力でやっても評価が A にならないのは、現場の実態とずれている。次の契約更新の時にこの問題

を解消するためにも、人数の配置については「どちらかですよ」と交渉が出来るように書き続けた方が良い。

4．そ　の　他

1．次回運営委員会日程について

日時：12 月 20 日（火）19 時～20 時

会場：オンライン Zoom